

舟鼻山と御前ヶ岳

小沼 充範

■山行年月日:平成 30 年1月7日

■メンバー:小沼充範 外島正明

栗田光基

スキーで舟鼻トンネルから御前ヶ岳へ行くルートは手軽に楽しめるルートである。美しいブナ林を鑑賞することができ、スキーの足慣らしに何度か来ている。今回、雪の御前ヶ岳へまだ登ったことのない外島さんと栗田さんを誘った。舟鼻トンネル7時40分出発。昭和村側に車を止め、トンネルの左側の斜面を登る。積雪は2mほどであり、雪が硬くしまっておりラッセルをすることがない。

林道を忠実に進み、9時20分、1203mピークの東側にたどり着く。さらに林道を進み地形図に崖記号のある手前、標高1170m付近より少し沢へ下りてから御前ヶ岳へ延びる尾根に取り付く。周囲は平坦な地形であり、地形図でルートを確認しながら進む。ガスにおおわれたら迷いやすい所である。途中で赤色のマーキングを見つけ、マーキングを探しながら進む。ブナの原生林がとても美しく、何度来ても飽きることはない。

御前ヶ岳山頂 11 時着。今日は山頂から博士山、志津倉山、御神楽岳、野尻川沿いの集落を望むことができる。会津駒、三岩岳はガスに隠れ見ることができなかった。シールをはずし、山頂から滑り降りる。美しいブナの広がる斜面は、わずか100mほどではあるが雪質が軽く心地よい滑りを楽しむ

御前ヶ岳のブナ



ことができる。林道で昼食をとる。素手ではいられないほどの寒さである。

時間があるので舟鼻山の頂上へ行くことにする。ブナの原生林の中を進んで行くと、目の前に広大な雪原が広がり、舟鼻山の頂上である。那須連峰、男鹿山塊はガスに隠れ見えないが、塩原の高原山、七ヶ岳、二岐山を見ることができた。林道を滑り降り、14時30分舟鼻トンネル着。何度来ても素晴らしいブナ林を楽しむことができるルートでした。

御前ヶ岳から見る博士山と志津倉山

